

Tokyo Woman's Christian University  
**A. Morimoto**Tsuda University  
**Y.Takahashi**

# 学の魅力に迫る

就職に強いことで知られ、社会で活躍する女性を数多く輩出している3女子大学。

その強みはどこにあるのか、現在に至るまでなぜ「女子大学であること」を選び続けているのか——。

各大学の学長が女子教育への思いを語り合った。

**日本女子大学**  
日本女子大学学長  
**篠原聰子**

**東京女子大学**  
東京女子大学学長  
**森本あんり**

**津田塾大学**  
津田塾大学学長  
**高橋裕子**

自分の可能性に気づき  
自信を得られる場

——女子大学の意義や強みについてお聞かせください。

**高橋** 女子大学は女性がセンターの位置で活躍でき、かつ教職員からの期待も実感できる貴重な場です。現在の日本社会では、残念ながら女性はまだまだ中心的存在とは言えず、そうした空間や時間は人生で二度と来ないでしょう。だからこそ、女性には社会に出る前に、自分の可能性に気づき、自尊感情を育むことのできる場が必要です。それが女子大学の意義だと思います。

**篠原** 私は日本女子大学大学院を修了後、男性が圧倒的に多い建築の世界で働いてきました。それでも特に性別を意識することなくこられたのは、女性であることが特別ではない学びの環境で育ったおかげだと実感しています。

らそう感じるわけですから、ジエンダーギャップ指数が先進国最低レベルの日本では女子大学の意義はさらに大きい。私たちはこうした強い思いを持つて、自覺的に女子大学であり続けることを選んでいるのです。

**森本** 例え共学では、サークルの会長は女性でも副会長は男性ということがあり得ます。これが女子大学だとどちらも女性ですから、学生は「女性にもさまざま輝き方がある」と身をもつて知ることができます。活躍する女性というとトップの人ばかりが注目されがちですが、社会にはそれをサポートするという輝き方もある。女子大学はそこに気づける場なのです。

セント・（意思決定）の位置に「ける  
社会への変革を「あなたが担うんです  
よ」と学生に伝え続けています。

**森本** 東京女子大学は創立以来、キリ  
スト教精神やリベラル・アーツ教育  
人類の福祉への貢献を掲げてきました。  
こうした理念に基づいた教育は、どん  
な時代、どんな仕事にも役立つ力にな  
ると確信しています。時代の要請に沿  
びない大学としての気概を胸に、長期  
的に見て社会への貢献につながる教育  
を行っています。

高橋 津田塾大学は「変革を担う、女性性であること」をモットーとしています。創立者の津田梅子は、女性に高等教育が認められていなかつた時代に、自立した女性の育成を目指して本学の前身となる女子英学塾を創立しました。私たちもその思いを受け継ぎ、女性性が



# 女子大

ていくことも重要です。女子大学は社会で活躍する女性を多数輩出してきた歴史がありますから、意思決定層の多様化という社会課題に対しても、大きく貢献できるものと考えています。

——そうした意義を踏まえ、どんな教育を行つていらっしゃいますか。

海外とのつながりが  
3女子大の創立基盤に

——3女子大学は今春、ロシアによるウクライナ侵攻に関して共同声明を出されました。その思いをお聞かせください。

**高橋** 篠原学長が発案して素案を作つてくださり、津田塾大学が英訳を担当させて、ござきました。本学の前身

の女子英学塾は、津田梅子の留学先であるアメリカの女性たちの募金活動によつて実現したものです。この支援がなければ開校は不可能だつたでしようがいたからこそ、海外とのつながりがありあつたからこそ今がある。声明にはそれを忘れてはいけないという思いと

**世界平和を願う思いを込めました。**

**森本** 本学も、アメリカのプロテスタント諸教派の援助のもと開学した歴史があります。共同声明は前学長が担当したものですが、私も大いに賛同しています。最近では、ウクライナからの避難学生の受け入れなどの準備を開始

しました。ウクライナ侵攻もコロナ禍も、数年前には誰も予想し得なかつた出来事です。この世界は数年後に何が起ころるかわからない。リベラル・アーツ教育は、こうした変化に対応する力の根幹となるものだとあらためて実感しています。

**高橋** 本学では、学生の留学やインターンシップなどの学外活動を広げるため、2017年度から学年暦を4ターム制に変更しました。6月中旬～7月下旬の第2タームと夏休み期間を併せて最長10週間、集中的に学外で活動できるようになっています。津田梅子は、海外で学んだからこそ日本にならぬものを打ち立てようという発想を持てました。以来、本学では海外経験を重視し続けており、グローバル教育はいわば当たり前のもの。世界を見てこそ変革をうながすことができるようになるのですから、視野を持つた地球市民としての女性」

かりや支援のもとで発展してきた歴史  
があります。その感謝の思いを表明し  
たく、また世界の平和を願つて皆さん  
にお声がけさせさせていただきました。  
——海外とのつながりを受けて、グロ  
ーバル教育では特に何を重視されてい  
ますか？

**篠原** 本学創立者の成瀬仁蔵は留学先のアメリカで女子教育の研究をし、後にそれが本学の開校につながりました。3女子大学は、いずれも他国とのつな

**篠原** 学生には、世界で起きていることを自分ごととして捉えられるようになつてほしいと願っています。そのため意識することが必要でした。

女性リーダーを育てる  
キャリア教育とは

——キャリア教育はいかがでしょうか  
日本では、女性の生涯にわたるキャリア構築が課題になっています。

歴史も含めて女性がリーファーとして責任を担つてゐる風景を学生に見せ続ける、それが最良のキャリア教育になると考えています。その意味では、本学はキャンパス全体がキャリアセンターと言えるでしょう。

高橋 本学では、学生の留学やインターンシップなどの学外活動を広げるため、2017年度から学年暦を4ターム制に変更しました。6月中旬～7月下旬の第2タームと夏休み期間を併せて、最長10週間、集中的に学外で活動できるようになります。津田梅子は、海外で学んだからこそ日本にならものを打ち立てようという発想を持てました。

以来、本学では海外経験を重視し続けており、グローバル教育はいわば当たり前のもの。世界を見てこそ変革を担うことができるようになるのですから、森本 グランドビジョンに「国際的な視野を持った地球市民としての女性」



の育成を掲げています。ウクライナの侵攻に際しても図書館で参考資料の展

現実に触れる機会を作っていくことが、めにも、やはり海外へ出る機会、他国の

**高橋** 私は、キャンパスで学生に見せる風景が大事だと思っています。教授陣の男女比は50対50で、職員の管理職

**篠原** 本学では、「現代女性とキャリアア」をテーマにした全学対象の講義を実施しています。また、企業と一緒に課題を解決するプログラムなども行っており、こうした働きかけを通して、学生に「働くって楽しいことなんと言えます。



「だ」と感じてもらいたい、生涯働き続けるイメージを持つてもらえるよう努めています。女性のキャリア構築においては、学生時代にさまざまなロールモデルに接することも重要ですから、キャリアガイダンスなどでは必ず卒業生の話を聞く機会を設けています。

——キャリア構築という点では、近年では生涯学習も注目されています。

**高橋** よく卒業式で「ここで学んだおかげで生涯学び続けねばならないと知ることができた」と挨拶する学生がいます。生涯学習の重要性に気づいてくれたのだと誇らしく思いました。大学は学び方を学ぶ場所であり続けたいですね。

**森本** 働き始めると多くの人が「大学時代にもっと勉強しておけばよかった」と言いますよね。それなら学び直しをすればいいわけですが、実際にそうするのは大学の4年間で勉強の面白さを知った人です。その面白さに気づかせる働きかけをするのも、大学の役割だと思います。

**篠原** その意味では、大学は生涯をともにする専門分野と出会う場所でもありますね。私も建築に出会ったのは本学の家政学部住居学科で、以来ずっとこの分野を探究し続けています。学生にも、そうした出会いを提供し続けていきたいと思います。また、人生は長いので、本学ではリカレント教育課程など社会人のための学び直しの仕組みも充実させています。近年は、転職のため、

あるいは今の会社や所属団体で幹部層などに就くため、もう一度大学で学びたいといったニーズも増えています。

——未知の物事に出会い充実した4年間を

——今後について、改革構想などありましたらご紹介ください。

**高橋** 本学は、建学の精神に沿いながら女子高等教育をさらに充実・発展させいくため、5年前に「Tsuda Vision 2030」を策定しました。今後も国際化推進をはじめ、大学、教育、研究、同窓生、経営の五つのビジョンを着実に実現していく方針です。

**森本** 創立以来続けてきたリベラル・アーツ教育をさらに進化させたいと、日夜大学改革に取り組んでいるところです。新たな東京女子大学を打ち出したいと思っています。今後にご期待ください。

**篠原** 本学は2021年の創立120周年を機に、4学部15学科と大学院を目指すに統合しました。そして2023年度には、国際文化学部を開設します。続けて2024年度には、建築デザイン学部（仮称）を開設する構想も進めています。翌年度以降も、既存学部の発展的な改組を構想中です。改革を通して、今後も新たなメッセー

ジをお願いいたします。

**高橋** 女性がリーダーシップを發揮している本学の風景は、若い女性に大きな自信を与えるでしょう。教職員は皆、エンダーギャップの激しい世界で

女性が生き抜いていくのは簡単ではないと知っています。そこで過ごす4年間は、私自身がそうであったように、生涯にわたってインパクトを与え続けるものになるに違いありません。受験生の方々には、ぜひ「自分の伸びしろ」を最大限伸ばしてくれる大学を選んでいただきたいです。

**森本** 大学での学びは、その広さも深さも高校までのものとは根本的に異なります。きっと想定もしていかつた学びに出会えることでしょう。そうして出会いを楽しみに入学していただければと思います。大学の4年間は、その後の人生を決めるような新たな価値に出会う時間です。心を開いて未知の物事との出会いを楽しんでください。

**篠原** 学生には、自ら関心を持つて専門的な知識を突き詰めていくことで、普遍的な課題や目的にたどり着いてほしいと願っています。例えば「どうすれば皆が幸せになれるか」といったことです。真っ直ぐに現実を見る勇気を持ち、新たな価値を創造できるよう、協働できる友だちを見つける。女子大

学で、そんな充実した4年間を過ごして欲しいと思います。

——受験生や保護者に向けてメッセー



日本女子大学  
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

[www.jwu.ac.jp/unv](http://www.jwu.ac.jp/unv)  
〒112-8681 東京都文京区自白台2-8-1  
03-5981-3163(広報課)



Tokyo Woman's Christian University  
東京女子大学

[www.twcu.ac.jp](http://www.twcu.ac.jp)  
〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1  
03-5382-6476(広報課)



津田塾大学  
TSUDA UNIVERSITY

[www.tsuda.ac.jp](http://www.tsuda.ac.jp)  
〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1  
042-342-5113(経営企画課)